わが国における 1940 年代前半の「国民住宅」に関する一考察
–建築家による論考と住宅営団の住宅基準・規格作成活動について–

内田・須崎研究室　野々村明佳里

研究概要

1930 年代後半から軍需工業地域を中心として流入した大量の労働者に対して、住宅供給が間に合わず深刻な住宅難が社会問題となっていた。1940（昭和 15）年になると、新体制運動に迎合して「国民住宅」という言葉が生まれた。当初は、日本国民にふさわしい健康的な国民生活を送るための住宅としての「国民住宅」を考える様々な議論が行われたが、住宅営団の出現により、その議論は最小限住宅を求めるものへと変化し、建築家らによる住宅の質の議論が消えてしまった。

研究目的

「国民住宅」を求める一連の運動の展開を、当時の建築家の論考により検討する。また、そのなかで「国民住宅」研究が大成しなかった背景を明らかにすることを目的とする。

研究成果

対象史料とした雑誌記事の分析結果(表 1)より、建築家らは「国民住宅」に対し、衛生的で健康な生活を送ることのできる住宅を求めていたことが明らかとなった。その一方で、住宅に神棚や床の間などの日本的精神をもつものを設け、日本人にふさわしい生活を送ることを目的とした提案もみられたのが特徴である。しかし、資材や資金が不足しているなかでこのような住宅をつくることは現実的ではなかった。そのため建築家らは理想の追求と同時に、大量生産を可能とする建築資材の規格統一などの技術革新といった現実的解決策の提示を行なっていたことが明らかとなった。

（表 1）「国民住宅」に関連する雑誌記事の分析結果

年月		記事名	著者	雑誌名	平面	図表	国民住宅とは	国民住宅が生まれた経緯	住宅難	国民住宅の完成	日本的精神	衛生	経済性	規格統一
1940	6	国民住居の標準	高山英華	建築と社会	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×
	9	國民住居の提唱	早川文夫	建築雑誌	×	○	○	×	×	○	○	○	○	○
	12	國民住宅の提案	石田善平	住宅	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×
		「国民住居」の提案	猪瀬平	建築と社会	○	○	×	○	○	×	○	○	×	×
1941	2	国民住居私案	大村巳代治	住宅	○	○	×	○	×	○	×	○	○	○
		國民住宅の標準庭園	城戸久	住宅	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○
		国民住宅の試案	中野貞一	朗	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	3	国民住宅への一試案（大阪）	三好喜三郎	朗	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○
	4	國民住居と國民食	熊谷兼雄	住宅	×	○	×	○	○	×	×	○	○	○
		國民住居への希望	鷲井清子	住宅	×	○	×	×	×	×	×	○	○	○
		国民住宅へ女としての希望	竹内さく	建築と社会	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×
	5	國民住居のことなどについて	藤原信夫	住宅	×	×	×	○	○	×	○	○	×	×
	11	國民住宅懸賞競技設計当選図案	吉浦健	建築雑誌	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	12	学会の「國民の住宅」競技設計に関連して -学会展覧会所見感想-	森田茂介	建築雑誌	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
1942	1	國民住宅研究・1	内田祥文	住宅	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	2	國民住宅に就て	内田祥文	建築雑誌	×	○	×	○	×	○	○	×	×	×
	3	國民住宅研究・2	内田祥文	住宅	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×
		國民住宅研究・3	内田祥文	住宅	○	○	○	×	×	×	○	×	○	○
	4	國民住宅研究・4	内田祥文	住宅	×	○	×	×	×	○	○	×	×	×
	7	國民住宅研究・5	内田祥文	住宅	×	○	○	×	×	×	×	○	○	×
	8	國民住宅研究・6	内田祥文	住宅	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×
	9	國民住宅研究・7	内田祥文	住宅	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×
	12	國民住宅序論	福井精一	住宅	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×
1943	2	國民住宅序論・2	福井精一	住宅	×	○	×	×	○	○	×	○	○	×
	3	國民住宅研究・8	内田祥文	住宅	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	4	國民住宅研究・9	内田祥文	住宅	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
	9	日本内地に於ける標準家族構成について： 標準國民住宅の規模決定の一要素として	船越義房	建築雑誌	×	○	×	×	○	×	○	×	×	○

また、一般市民に「国民住宅」という言葉が普及したのは、1941（昭和 16）年に住宅営団が設立され、営団によって「国民住宅」が建設されるようになってからである可能性があることが当時の新聞記事からうかがえた。設立当初の営団規格は、庶民が住むのにふさわしい健康的な衛生住宅、つまり「国民住宅」の建設を理念としていた。しかし、戦時下の統制の影響によって住宅の質の向上は住宅規模の縮小の前に忘れ去られてしまったものと考えられる。

苦労した点や感想など

住宅営団関連の既往研究はいくつかみられるものの、「国民住宅」に関する既往研究は見られなかったため、史料の収集に多くの時間を費やしましたが、ご指導いただいた先生方や励ましあった研究室の方々のおかげで書き上げることができたことを感謝いたします。